

中区栄一丁目

第4次豎三蔵通遺跡発掘調査
概要報告書

1987

名古屋市教育委員会

例 言

1. 本書は、名古屋市中区栄一丁目24番地に所在する竪三蔵通遺跡（市遺跡台帳番号7-4）の第4次発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、名古屋市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査に係わる調整事務は文化課が担当した。
4. 発掘調査は、名古屋市見晴台考古資料館学芸員（木村有作・千田嘉博・伊藤厚史）が担当した。
5. 発掘調査は、昭和61年4月15日から5月31日にかけて実施した。
6. 発掘調査に至った原因は、株式会社シンコーホームが住宅建設を計画したためである。
7. 調査区の基本平面図作成業務は、中日本航空株式会社に委託し、空中写真測量で実施した。
8. 基準高は、東京湾の平均海面（T.P.）を第1図、名古屋港工事用基本水面（N.P.）を第8、9、11～14図に用いた。N.P.=T.P.+1.4119m
9. 方位は真北を示す。（第1、2、4～7、10図）
10. 本書の作成にあたっては次の方々の御教示、御協力をいただいた。記して謝意を表する。
浅井和宏 浅田貞由 齋藤孝正 柴垣勇夫 仲野泰裕 宮本長二郎 荒木みのり
大江達子 戸田未起 伊藤 純 内田好昭
11. 出土遺物、調査記録類は、名古屋市見晴台考古資料館で保管している。
12. 本書の編集・執筆は、伊藤が行った。



目 次

I. 位置と環境	1
II. 調査に至る経過	5
III. 調査の経過	6
IV. 調査の概要	13
1. 遺構	13
1. 古墳時代の遺構	
2. 近世・近代の遺構	
2. 遺物	21
1. 縄文時代	
2. 弥生時代	
3. 古墳時代	
4. 奈良時代から平安時代	
5. 鎌倉時代	
6. 江戸時代	
7. 明治時代以降	
V. まとめ	25
遺物観察表	27
写真図版掲載遺物表	31
写真図版	
1. 調査区全景	
2. 遺構	
3. 遺構	
4. 遺物出土状態	
5. 遺物 弥生土器・土師器	
6. 遺物 須恵器	
7. 遺物 須恵器	
8. 遺物 須恵器	
9. 遺物 須恵器・腹輪	
10. 遺物 中世陶器 他	
11. 遺物 SK01出土	

12. 遺物 SK01出土 他	
13. 遺物 SK03A出土	
14. 遺物 SK03B出土	
15. 遺物 包含層出土 他	
16. 遺物 SK14出土	
17. 遺物 SK14出土	
18. 遺物 SK14出土	
19. 遺物 SD01出土	
20. 遺物 土人形	
21. 遺物 土人形	
22. 遺物 土人形	

挿 図 目 次

第1図 調査位置	1
第2図 那古野台地の遺跡	3
第3図 尾府全図	4
第4図 調査区位置図	5
第5図 遺構配置図	7・8
第6図 遺構全体図	11・12
第7図 調査区北壁大溝断面図	13
第8図 土坑SK06上器出土状態	14
第9図 2BGr. 石敷き・SD03断面図	14
第10図 石敷き平面図	17
第11図 5BGr. SD01断面図	18
第12図 4BGr.・5BGr. 間土層図	18
第13図 3BGr.・4BGr. 間土層図	18
第14図 調査区南壁土層図	19・20
第15図 遺物実測図 1	22
第16図 遺物実測図 2	23
第17図 遺物実測図 3	24

I. 位置と環境

竪三蔵通遺跡は名古屋市中区栄一丁目に所在している。JR名古屋駅から南東へ約1.1kmの距離にある。名古屋市街地の中心部は、今からおよそ6万年前の新生代第四紀更新世に古木曾川が運んできた土砂の堆積によって形成された河成平野が隆起し、段丘化したと考えられる面（熱田面）にのっている。この中位段丘面は河川により開析され那古野台地、熱田台地、御器所台地、瑞穂台地、笠守台地に分かれている。

本遺跡はこのうち最も西側に張り出した那古野台地の南西縁部、標高5～10mに立地し堀川をはさんで西に広がる沖積平野を望む位置を占める。那古野台地は、江戸時代の城下を継承して発展してきたため、最も早く都市化の進んだ地域であり、そのため遺跡は市街地の下に埋もれたままよくわかっていない。本遺跡もその例にもれず、昭和45年頃発見され昭和56年の分布調査の際改めて弥生時代から中世にかけての遺物散布地として台地南端部が遺跡として周知されるようになった。ところが昭和58年に岡山病院内（第1次調査）と栄小学校内（第2次調査）の2箇所で調査を行ったところ、古墳時代から中世にかけての遺構、遺物のみでなく、近世の屋敷跡や漆を検出し、名古屋城下町を復元する上でも重要な遺跡であることが明らかとなった。また遺跡の推定範囲も東西約450m南北約240m、面積約10万8千㎡と市内でも屈指の広さを有する遺跡となったのである。昭和60年には第



第1図 調査位置

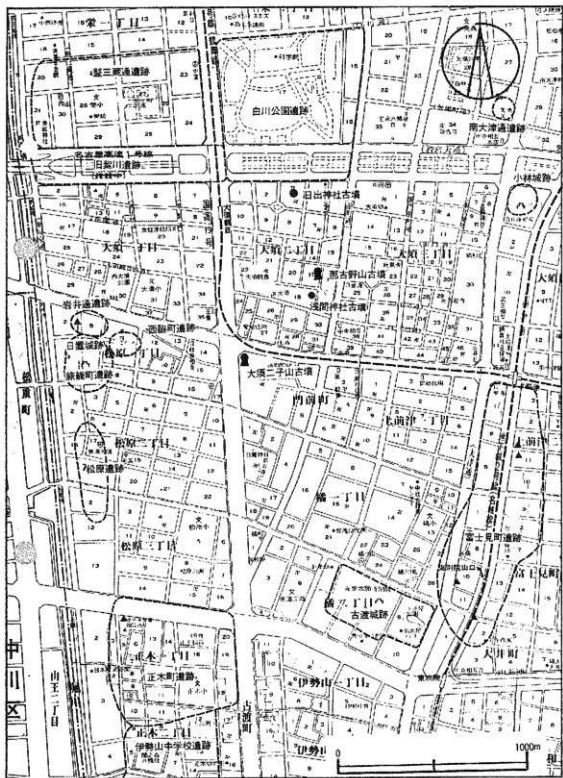
2万5千分の1 地形図より

3次調査を行い古墳時代の住居跡等多くの遺構、遺物を検出している。本年度は、今回報告する第4次調査区の他2箇所（第5次調査、第6次調査）で行い前回までと同様大きな成果をあげている。

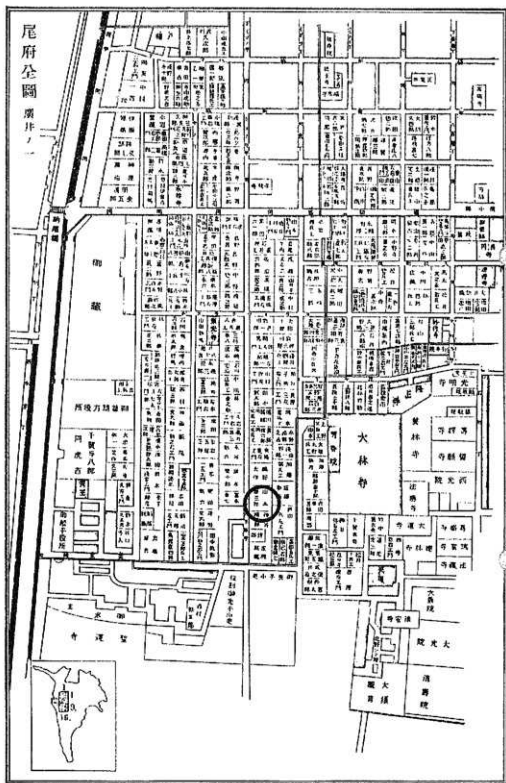
ところで本遺跡の名称となった「豎三蔵通」は、錦通から若宮大通に至る南北道路であるが、江戸時代には三ツ蔵筋又は豎三蔵と呼ばれていた。この名称の由来は、広小路の南、堀川沿いに尾張藩の御蔵があったところからきている。この御蔵は福島正則が清洲城へ入城した時に、城内に長さ30間の米蔵を三棟建てたことに始まり、松平忠吉が城主となった頃これを三ツ蔵と呼んだらしい。慶長15年(1610年)、いわゆる清洲越しとなって名古屋の地へ移り、数十の蔵を建ててもなお普通通り三ツ蔵と呼ばれ続けた。明治時代になり御蔵は取り壊されたが、東西道路である三蔵通と共にその名を今日に残しているのである。

城下町割図の「天明年間名古屋市中支配分図」や「尾府全図」を見ると、本遺跡の範囲は武家屋敷が建ち並んでいたようである。延享3年(1746年)には御蔵の南側へ武家屋敷を取り壊して御普請方役所が建てられた。また、御普請方役所と天王社(洲崎神社)の間には船奉行千賀氏邸があった。千賀氏は知多郡の出身で、天文年間重親の代に初めて家康につき、師崎に住んで船奉行を務め、三州の海上警備にあたった。以来、長久手の戦、小田原征伐、文禄の役、関ヶ原の戦等で戦功を上げ、江戸時代を通じ尾張徳川家の船奉行を務めた人物である。南隣の天王社は、もと地神(石神)を祀る石神神社(旧村社)と素戔鳴尊を祀り広井天王、牛頭天王と呼ばれた洲崎神社(旧郷社)の二社あった。名古屋城築城以前は、現在の栄一丁目一带が社地であったのが、築城後武家屋敷となり現在の社地に狭まったようである。今回調査した地点は、明治2年作成の「尾府全図」によれば山本邸があったあたりと推定される。

本遺跡の南側は東から西に抜ける谷筋となっており、戦前まで小河川(紫川)が流れ竹藪となっていた。紫川は現在の名古屋科学館の北付近より発して西流し、国道19号線流した後若宮大通で再度西流していたと推定されていたが、名古屋都市高速道路等の建設に伴い若宮大通地内で昭和57年～61年にかけて5度調査した結果、護岸石垣等を検出し紫川の存在を実証したうえ、縄文時代早期から明治時代にわたる多量の遺物を得ることができた。また、東側の谷筋(現国道19号線)を隔てた白川公園では、昭和60年の美術館建設に伴う事前調査で保存良好な近世墓地(土葬墓 約260基)を検出している。その南方、那古野台地で最も標高の高くなる大須二丁目には、那古野山古墳、浅間神社古墳、日出神社古墳があり、少し離れて大須二子山古墳があった。これらの古墳と本遺跡とは紫川の流れる谷筋を挟んで接しており、また那古野山古墳や大須二子山古墳の築造時期は5世紀後半～6世紀初頭と推定され、そして本遺跡には同時期頃の住居跡があることから、古墳と集落の関係を知る上で本遺跡の内容は重要である。



第2図 那古野台地の遺跡

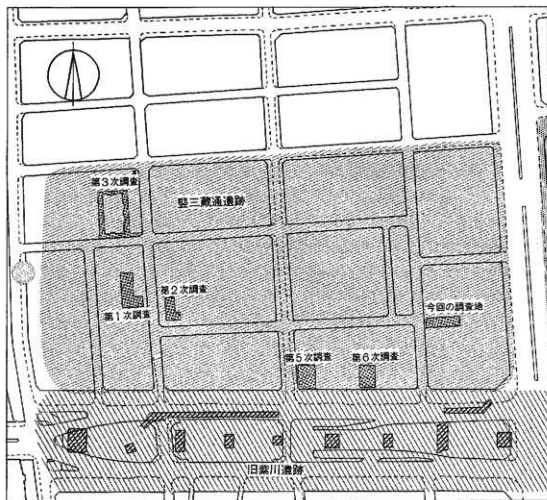


第3図 尾府全圖

『名古屋市史 地理篇』より

Ⅱ．調査に至る経過

昭和59年9月、日東商事が来庁し、売買規則等について問い合わせを受ける。文化課では当該地が近いうちに埋蔵文化財包蔵地の範囲に含まれる見通しであることを告げ、試掘をするべきと指導する。昭和60年7月、日東商事より試掘の依頼を受ける。昭和60年8月19日、試掘を実施する。試掘の結果埋蔵文化財包蔵地であることを確認する。昭和60年10月、安田信託銀行（仲介者）より土地が売却できそうなので調査を事前にできないか相談を受けるが、工事計画が具体化したうえでなければ発掘できない旨回答する。昭和61年2月、シンコーホーム株式会社代理が来庁し、発掘調査を依頼する。昭和61年4月14日、受託契約を結ぶ。昭和61年4月15日、発掘調査を開始する。



第4図 調査区位置図

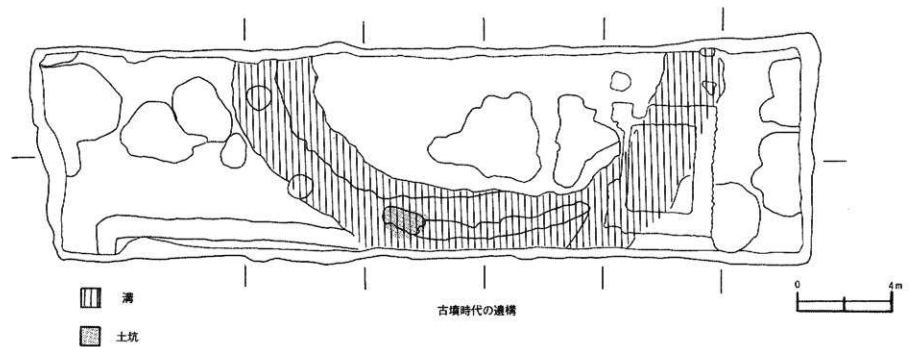
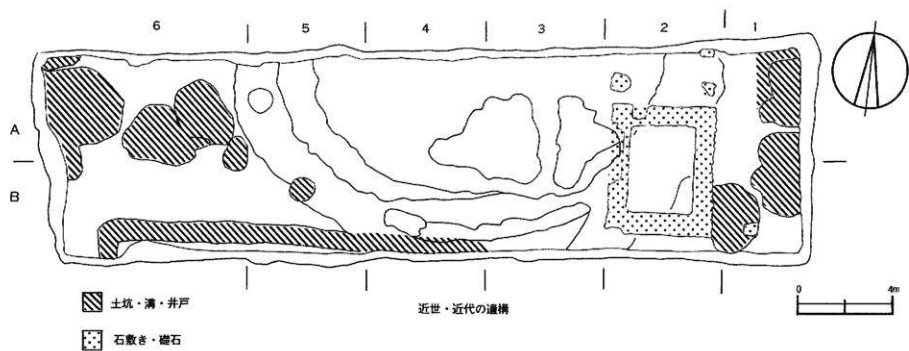
Ⅲ. 調査の経過

発掘調査は、昭和61年4月15日に着手した。調査対象地は、南北約13m 東西約40mの東西に細長い地で、西側が御通運に接している。まず調査予定地の表土をバックホウを使い除去した。表土は、地表下約70cmほど堆積しており調査区中央部分では戦後の攪乱坑が遺構を破壊しているようだった。また調査区北東、北西端部を深掘りしたところ、北西端部でシルト質の強い黒褐色砂シルト質土が堆積する深い落ち込みを確認した。

4月21日から遺物包含層の掘削を開始した。掘削にあたりグリッドを設定した。グリッド名は調査区北東隅を基準として、5m幅で西へ1、2、3…6、南へA、Bとしこの組み合わせによる北西角の杭番号で呼称することとした。最初は攪乱坑から掘削した。2号Gr. にあたる攪乱坑（試掘坑）を掘削したところ扁平な玉石を検出したので、この玉石の範囲を確認したところ、口字形で東西、南北およそ5mと推定できた。この東北側の1A Gr. では茶褐色砂シルト質土包含層を約15cm掘削したところよく締まった面が広がることが確認された。23日からは1A Gr. から5B Gr. にかけて包含層掘削、遺構検出に入った。5A Gr.、5B Gr. では南端で東西方向の溝（SD01）と調査区北西端より南東へ緩くカーブする幅約3mの大溝1を検出した。SD01は茶褐色砂シルト質土を埋土とし、近世の遺物を含んでいた。この溝は4B Gr. で南にまがっていることから家屋敷を画するものではないかと考えた。大溝1は黒褐色砂シルト質土を埋土とし、古墳時代の遺物を含んでおりそれ以降の遺物は含まれていないようだった。この大溝1の性格について、位置的にここはすぐ東及び南に開析谷があるため、西側に広がると推定される集落を画する溝と考えた。さらに検出を続けた結果、この大溝1は4B Gr. で東西方向となってさらに東へ続いている状況となった。しかし、4B Gr. では埋土が5A Gr. や5B Gr. と異なり、黄色をした地山の砂を多く含んだ茶褐色の強い土であったので、念のため区分してSD01として遺物を取り上げた。さらに3B Gr. では溝内が二つに分かれていた。すなわち4B Gr.、SD02に続く溝とその南の黒褐色シルト質土を埋土とする溝とになっていた。そのため南の溝をSD03とした。SD02の北の肩は地山で明瞭であるものの、南の肩は黄色砂が混じる黒色土であった。SD03との新旧関係は明瞭に検出することはできなかった。SD03は南に傾斜して調査区の外へ続き、また東半分は深く東側へ下がっていた。



写真1 調査風景



第5図 遺構配置図

3 BGr.、4 BGr. の溝の調査と平行して1 AGr. ～2 BGr. の近世土坑や石敷きの調査も進めていった。1 AGr. 1 BGr. の土坑からは多くの陶器が出土した。石敷きは茶褐色砂シルト質土を埋土とする浅い掘り方を持ち据えられていた。その下の土は黒褐色砂シルト質土であり、遺物は少なかったものの全て古墳時代のものであった。この事と石敷き下の土層観察で溝の肩が検出できた事により、SD03が南西よりカーブして北へ続きさらに調査区外へ続いている事が明らかとなった。すなわち大溝1は調査区内で弧を描く形の溝である事がわかった。

5月9日に6 BGr. の拡張を行った。12日から遺構検出、掘削を行ったところSD01の溝の続きを検出したのをはじめ、土坑等を検出した。またこの日6 AGr. も調査することになったので5月16日に6 AGr. の表土掘削を行った。6 AGr. は近世の遺物を含む土坑を多数検出した。遺構の掘削は5月23日までに大方終了した。

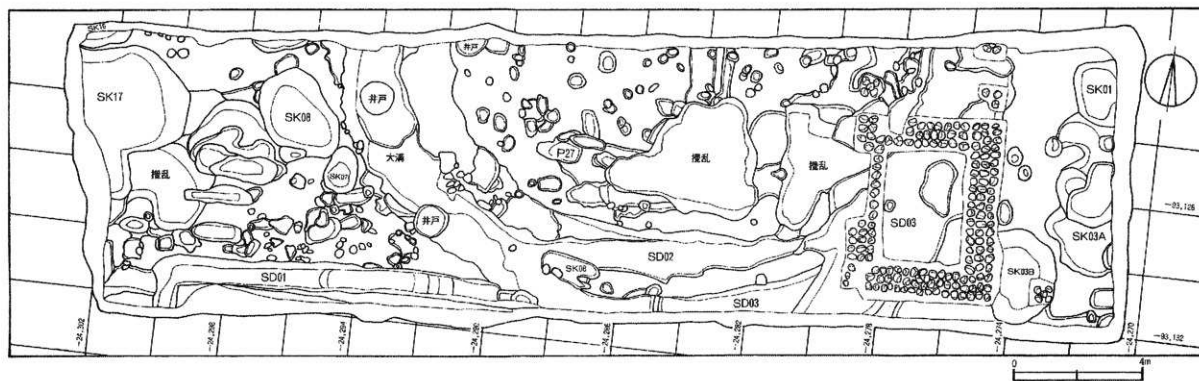
5月26日に清掃を行い、翌27日にヘリコプターによる空中写真撮影を行い、その後北隣のビル屋上をお借りして写真撮影を行った。28、29日には石敷き下に残る黒褐色砂シルト質土の掘削を行った。30、31日に調査区南壁のセクション図作成を行い調査を終了した。



写真2 調査風景

調査日誌抄

- 4月15日 表土除去。
- 4月16日 表土除去。
- 4月21日 遺物包含層掘削開始。擾乱坑掘削。
- 4月22日 1A~1BGr. で甲き締められた面検出。
- 4月23日 1A~4BGr. で包含層掘削及び遺構検出開始。大溝1検出掘削。
- 4月24日 SD02検出掘削。
- 4月25日 1A~1BGr. で土坑検出掘削。石敷き検出開始。
- 4月30日 1A~2BGr. で検出した土坑を平板測量。4BGr. SK06検出。
- 5月1日 SD02、SD03掘削。
- 5月6日 1AB~2ABGr. 間セクションベルト取り外し。10時降雨作業中止。
- 5月7日 1AGr. SK05平板測量。5AGr. 大溝1層検出。
- 5月8日 1ABGr.、石敷き清掃。各セクション上層図作成。
- 5月9日 石敷き写真撮影。6BGr. 表土除去。
- 5月12日 6BGr. 遺構検出掘削。
- 5月13日 6BGr. 遺構検出掘削。
- 5月14日 雨天のため発掘作業中止。
- 5月15日 未掘ピット掘削。大溝1ほぼ完掘。
- 5月16日 未掘ピット掘削。6AGr. 表土掘削。
- 5月19日 6AGr. 遺構検出。午後降雨作業中止。
- 5月20日 午前中雨天のため作業中止。午後より6AGr. 遺構検出掘削。
- 5月21日 6AGr. 遺構掘削。未掘ピット掘削。
- 5月22日 6AGr. 遺構掘削。未掘ピット掘削。
- 5月23日 ほぼ遺構掘削終了。
- 5月26日 清掃。
- 5月27日 写真測量のためヘリコプターによる空中写真撮影。
- 5月28日 石敷き下黒褐色土掘削。
- 5月29日 雨の中石敷き下黒褐色土掘削終了。11時激しい降雨のため作業中止。
- 5月30日 ヘリコプターによる2回目空中写真撮影。調査区南壁上層図作成。
- 5月31日 調査区南壁土層図作成。現地調査終了。



第6図 遺構全体図 (S=1/100)

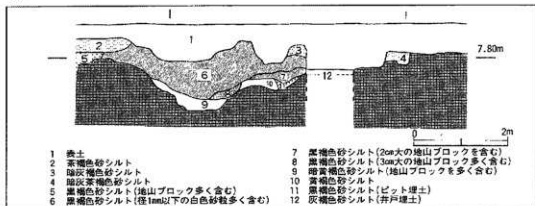
IV. 調査の概要

今回の調査は、住宅建設に伴う事前調査として約 290m²を対象に実施した。調査地点は標高8.5mを測るが、戦後の大規模な復興事業計画により盛土削平しているため近世以前の地形を地表面からは窺い知ることはできない。調査の結果、厚さ約60～80cmの表土下で遺物包含層を検出したが、北西側では表土直下で地山を検出した。遺物包含層は茶褐色砂シルト層と黒褐色砂シルト層で、出土遺物から前者は近世末から近代、後者は古墳時代から中世のものと推定される。遺構は地山面及び茶褐色砂シルト層、黒褐色砂シルト層で検出した。古墳時代の遺構として大溝1（SD02・03含む）、土坑SK06がある。近世、近代の遺構として土坑SK01、03A、03B、05、07、08、17、溝SD01、石敷き、井戸等がある。遺物はコンテナケース（542×342×153cm）約50箱分が出土したが7、8割方は近世以降の陶磁器で占めている。

1. 遺構

1. 古墳時代の遺構

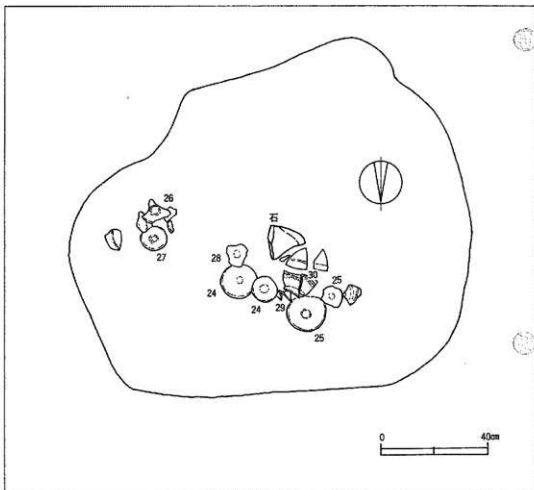
大溝1 調査区中央部で検出した。幅2.7～3.4m、深さ0.6～1.1mを測り、円弧状をなす。5 AGr. では幅約3.2m、深さ約1.1m（検出面より）を測り、埋土は黒褐色砂シルトである。5 BGr. から緩く曲がって4 BGr. に向かう。4 BGr. では埋土は地山の崩れた砂を多く含んだ茶褐色の強い黒褐色砂シルトである（調査時SD02と仮称）。幅約1.3m、深さ約0.7m（検出面より）を測る。この南側はSD01の開削によって壊されている。3 BGr. では4 BGr. から続く部分と、その南側で黒褐色砂シルトを埋土とする部分（SD03と仮称）を検出した。SD03は南へ下がっており北肩部分を検出したに留まり、大部分は調査区外である。2 BGr. では調査区の外を通っていたSD03が再び北へ向かって曲がって来部分にあたり、深さ約1.0m（検出面より）を測る。SD03は北方向へ緩やかに曲がり、



第7図 調査区北壁大溝断面図

2 AGr. を通り調査区外へ続く。古墳時代後期の須恵器、土師器等が出土した。

SK06 4 BGr. SD02 下層で検出した。SD02掘削中須恵器が集中して出土したため、周辺を精査したところ土坑内であることが明らかとなった。SD02と、SD02とSD03の間に位置しているが埋土はSD02とよく似ており、SD02との前後関係は明らかにできなかった。長さ約1.5m、幅約1.1m、深さ約0.5m(検出面より)を測り、検出時の平面形は楕円形である。土坑内北東寄りの底よりやや浮いた状態で須恵器が出土した。須恵器は有蓋高環部2点、脚部6点、短頸壺1点が出土した。高環は環部と脚部がすべて離れていた。短頸壺は下半部を欠いていた。



第8図 土坑SK06土器出土状態

2. 近世・近代の遺構

SK01 1 AGr. の北半で検出した。北は攪乱で壊されていたが、東側は調査区外へ続く。東西1.7m以上、南北3m以上、深さ約0.6m（検出面より）を測る。包含層である茶褐色砂シルトを掘り込んで作られ、底部は平坦である。なお検出面は叩きしめられていた。19世紀代の陶器、磁器等が出土した。

SK03A 1 A・1 BGr. の東寄りで検出した。東側は調査区外へ続く。東西1.5m以上、南北約3.5m、深さ0.6～0.95m（地山面より）を測る。包含層の茶褐色砂シルトを掘り込んで作られている。初めSK03Bと同じ遺構と思われたのでSK03として遺物を取り上げていたが、地山面まで掘削したところ異なることが判り以後A、Bに分けた。埋土は上層炭化物を多く含む暗茶褐色砂で下層は茶褐色砂シルトである。掘り方の形状からさらにもう一つの遺構と重複していると考えられたのでSK04としたが遺物はほとんど混在して取り上げている。19世紀代の陶器、磁器等が出土した。

SK03B 1 BGr. 南西部で検出した。東西約2.5m、南北約3.2m、深さ約1.2m（検出面より）を測り楕円形をなしている。包含層の茶褐色砂シルト土を掘り込んで作られている。埋土は茶褐色砂シルト土である。19世紀代の陶器、磁器等が出土した。

SK05 1 AGr. 西側で検出した。SK01を切って掘られている。東西約1m、南北約4.5m、深さ0.4～0.5m（検出面より）を測る。叩きしめられている茶褐色砂シルト土を掘り込んで作られている。埋土は茶褐色砂シルト土である。下層にいく程砂が多い。北側が深くなっている。土坑というよりは整地土層の可能性が高い。遺物はほとんどない。

SK07 6 BGr. 東北隅で検出した。径約1.0×1.5mの楕円形をしている。深さ約0.75m（地山面より）を測る。埋土は茶褐色砂シルト土である。19世紀代の陶器、磁器、瓦等が出土した。

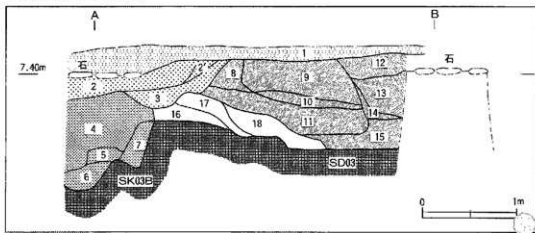
SK08 6 AGr. で検出した。東西約4.5m、南北約5.0m、深さ0.3～0.7m（地山面より）を測る。埋土は茶褐色砂シルト土である。19世紀代の陶器、磁器、瓦等が出土した。

SK17 6 AGr. 西側で検出した。調査区西側へ続く。東西3m以上、南北約3.0m、深さ0.8～1.3m（地山面より）を測る。南側は現代の攪乱で壊されている。埋土は炭化物が多く混じる。初めSK14を内側で検出したが、断面観察の結果SK17の中央部分の埋土であることが判った。19世紀代の陶器、磁器、土製人形等が出土した。

SD01 4 B・5 B・6 BGr. の調査区南壁に沿って検出した素掘りの溝。幅約0.9m、深さ約1m（検出面より）を測る。部分的に深い所があるが底部はほぼ平坦である。東西方向に約15.3m検出したが、西端で直角に南に曲がる。また東端部分も南へ曲がっているが東端に比べて緩やかである。埋土は淡茶褐色砂シルト土である。19世紀代の陶器、磁器等が出土した。

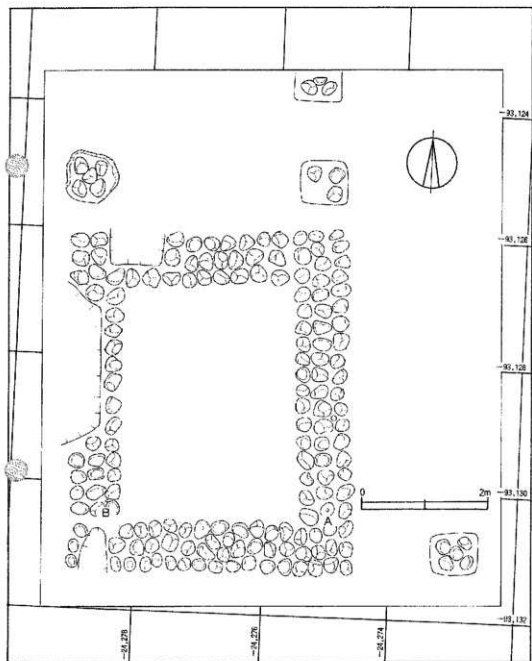
2. 近世・近代の遺構

石敷き (挿図10 写真図版2-2) 2A・2BGr. で検出した。東西約4.5m、南北約5.4mを測り口字状に一周する。石は径0.2~0.3mの扁平な河原石を使用し、各辺とも3列ずつに並べている。どの辺とも面を揃え整然と並べているが南西部はやや乱れている。東辺の西側では掘り方を検出した。この石敷きに囲まれた内側ではこれに伴う遺構は検出されなかったが、石敷きの上位層は叩き締められて、面をなしていた。また石敷きの北側では、5個1単位のやはり扁平な河原石を使用した礎石を約0.5m離れて2箇所、2.5m離れて1箇所検出した。その内、西側の礎石は地山面で検出した長さ約0.8m、深さ約0.12mのPit内に並べられていた。東の礎石は包含層を掘り込んで据えられていたため掘り方を検出することはできなかったが西側同様のPitに据えられていたと思われる。両者の間、心心で約3.7mを測る。東側でも約1.4m離れて同様に5個1単位の礎石を1箇所検出した。これらは石敷きに何らかの形で関係する礎石群と考えられる。石敷き掘り方内より19世紀代の陶器等が出土した。

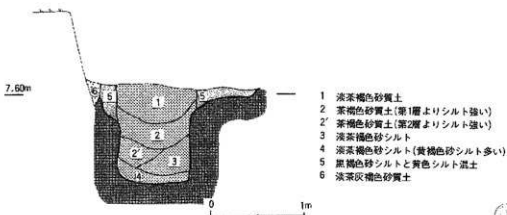


- | | |
|------------------------------|--------------------------------------|
| 1 灰褐色砂シルト(1~5mm大砂粒多い。近世陶磁含む) | 10 黒褐色砂シルト(黄色砂少し含む) |
| 2 茶褐色砂シルト | 11 黒褐色砂シルト(第層より砂質。10cm大の砂物ブロック含む) |
| 2' 茶褐色砂シルト(3~5mm大の小石含む) | 12 茶褐色砂シルト(色目は第層に似る。1cm大の粒分の比重多い) |
| 3 茶褐色砂シルト(第2、2'層より粘質) | 13 暗茶灰色砂シルト(砂質) |
| 4 茶褐色砂シルト | 14 茶褐色砂シルト |
| 5 茶褐色砂シルト(黄褐色砂含む) | 15 黒褐色砂シルト(砂粒多い。1cm大の黒褐色シルトブロック多い) |
| 6 茶褐色砂シルト(黄褐色砂多い) | 16 黄褐色砂シルト(黄褐色に5mm大の暗褐色シルトブロック多く混じる) |
| 7 茶褐色砂シルト(黄褐色砂多い) | 17 黄褐色砂シルト(地山崩れの砂多い) |
| 8 黒褐色砂シルト(砂質) | 18 暗褐色砂シルト |
| 9 黒褐色砂シルト(第8層より粘質。土器片多く含む) | (暗褐色砂シルトブロックに5~10cm大黄色砂ブロック混じる) |

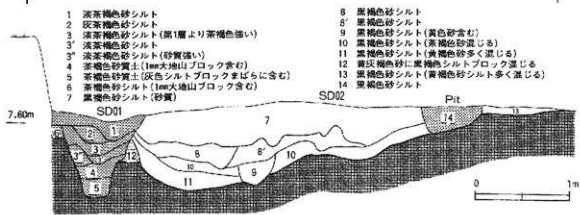
第9図 2BGr. 石敷き・SD03断面図(A-B間 北面)



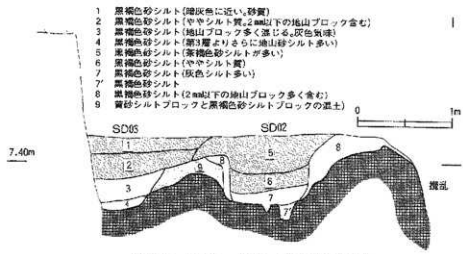
第10図 石敷き平面図



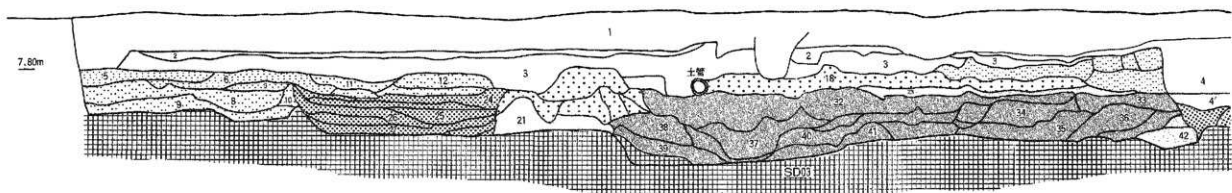
第11図 5BGr. SD01 断面図(東面)



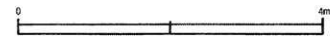
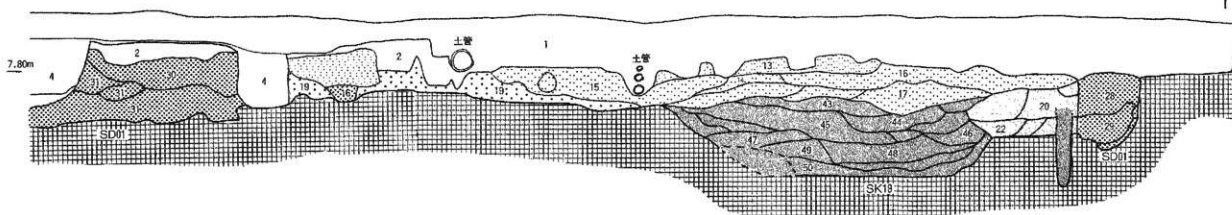
第12図 4BGr.・5BGr.間土層図(東面)



第13図 3BGr.・4BGr.間土層図(東面)



- | | | |
|-------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------|
| 1 表土 | 17 黄褐色砂シルト(黄褐色シルトブロックと黒褐色シルトブロックが混じる) | 34 黒褐色シルト(シルト質土) |
| 2 暗褐色砂 | 18 黒褐色シルト(褐色が強い) | 35 黒褐色シルト |
| 3 暗褐色砂シルト | 19 黒褐色シルト(0.2~0.3cm大の油山砂多く含む) | 36 黒褐色シルト(黄色ブロック含む) |
| 4 粘土(攪乱状) | 20 暗褐色シルト | 37 灰褐色シルト |
| 4' 暗灰褐色砂(腐乱状下層) | 21 黄褐色砂 | 38 暗灰褐色シルト |
| 5 茶褐色砂シルト(3層に似る) | 22 黄褐色砂 | 39 暗黄褐色砂 |
| 6 茶褐色シルト(5mm大黄色シルトブロックまばらに含む) | 23 黄褐色砂 | 40 暗褐色シルト |
| 7 茶褐色シルト(1~2cm大黄色シルトブロック帯に含む) | 24 暗灰褐色シルト(砂質土) 24~27層→近世土壌土 | 41 茶褐色シルト(褐色シルトと黄褐色シルトブロック帯に含む) |
| 8 茶褐色シルト | 25 灰褐色シルト(砂質土) | 42 暗黄褐色砂(褐色シルトまばらに含む) |
| 9 暗茶褐色シルト | 26 黄褐色シルト(砂質土) | 43 褐色シルト 43~45層→SK(砂土) |
| 10 暗褐色シルト(砂質土) | 27 灰褐色シルト | 44 黒褐色シルト(黄褐色シルトブロックを少量含む) |
| 11 暗褐色シルト(3層に似る) | 28 黄褐色シルト 28~29, 30~31層→SD01埋土 | 45 暗褐色シルト |
| 12 灰褐色シルト(砂質土) | 29 黒褐色シルト | 46 褐色シルト(5mm大の黄色シルト帯に含む) |
| 13 暗褐色シルト | 30 暗灰褐色砂 | 47 暗褐色シルト(5mm大黄色シルト帯に含む) |
| 14 暗褐色シルト(黄褐色と褐色シルトが混じる) | 31 暗茶褐色砂 | 48 暗褐色シルト |
| 15 暗褐色シルト(5cm大黄色シルトブロック多く含む) | 32 黒褐色シルト(鉄分の注量多い) 32~41層→SD03埋土 | 49 暗褐色シルト(5mm大黄色シルトまばらに含む) |
| 16 暗褐色シルト | 33 黒褐色シルト(シルト質土、暗褐色強い) | 50 黄褐色シルト(黄褐色シルトブロックを含む) |



第14図 調査区南壁土層図 (S=js)

2. 遺物

1. 縄文時代

包含層中や近世、近代の土坑中から土器細片が十数点の他、礫石錘1点が出土している。

2. 弥生時代

後期山中式の壺口縁部片（写真5-1）や後期欠山式の高坏脚部片（写真5-5）等数点出土している。底部に網代痕のある破片もある。

3. 古墳時代

前期の土器はS字状口縁台付甕の口縁部片があるが、土師器は小片のため時期が明らかになるのはほとんどない。

中期以降の土器は土師器、須恵器がある。

土師器は高坏の脚部片（写真5-3、4、6）の他甕の口縁部片等がある。（写真5-2）はS字状口縁台付甕の最末の形態に似る。

須恵器（写真6・7・8・9）は包含層、近世、近代の土坑の他、大溝より多く出土したが、時期に幅がある。

5世紀後半～6世紀初頭のものとして、坏身、坏蓋、高坏、無蓋高坏、短頸壺、摺鉢、器台等がある。高坏6点と短頸壺はSK06より一括出土したもので、高坏は胎土に白色砂粒が多く、焼成が悪い点で類似する。摺鉢は体部外面に線刻がある。

6世紀代のものとして、坏身、提瓶等がある。

7世紀代のものとして、坏身、甕、甃、横瓶等がある。甕はほぼ完形で溝底近くに横転した状態で出土した。

土器以外では埴輪（写真9-11～17）、土製紡錘車（写真10-2）、鉄製品（写真10-1）、須恵質土鍔等がある。埴輪はいずれも細片で、同一の胎土、色調をしている。SD

より出土した。

4. 奈良時代から平安時代

須恵器の破片の中にはこの時代に下るものがあるかもしれないが、ほとんどない。

5. 鎌倉時代（写真10-4～13）

山茶碗類、小皿類が少数ある。4 AGr. P27出土の碗や6 BGr. P4の小皿を除いて小片である。

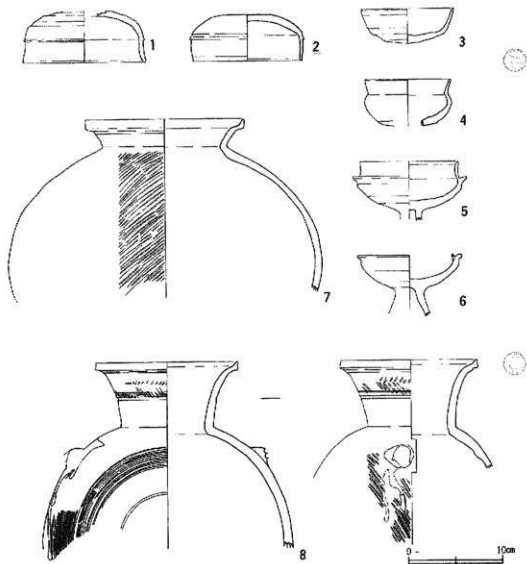
6. 江戸時代（写真11～22）

出土遺物の7、8割を占めている。特にSD01、SK01、SK03B、SK14から多く出土した。17世紀代のもはごくわずかで大方19世紀代のものである。陶器が圧倒的に多く、碗、皿、蓋、灯明具、壺、鉢、摺鉢、水瓶、徳利、水鉢、土瓶、植木鉢、水滴等がある。

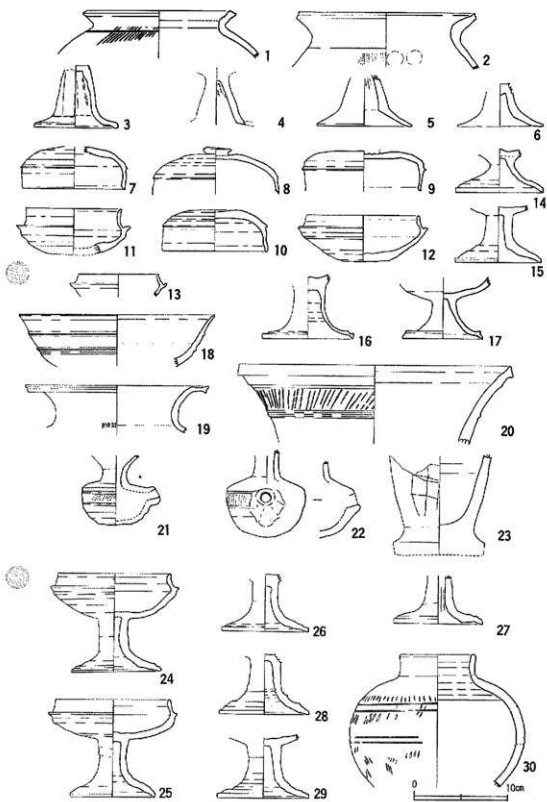
素焼きの土器として、大甕、鉢、焼塩壺、土師皿、内耳鍋等がある。磁器として、碗、水滴、紅皿等がある。他に瓦、古銭、砥石、土人形、泥面子様土製品、円盤状陶製品等がある。また、底部に墨書のある陶器も何点かある。

7. 明治時代以降

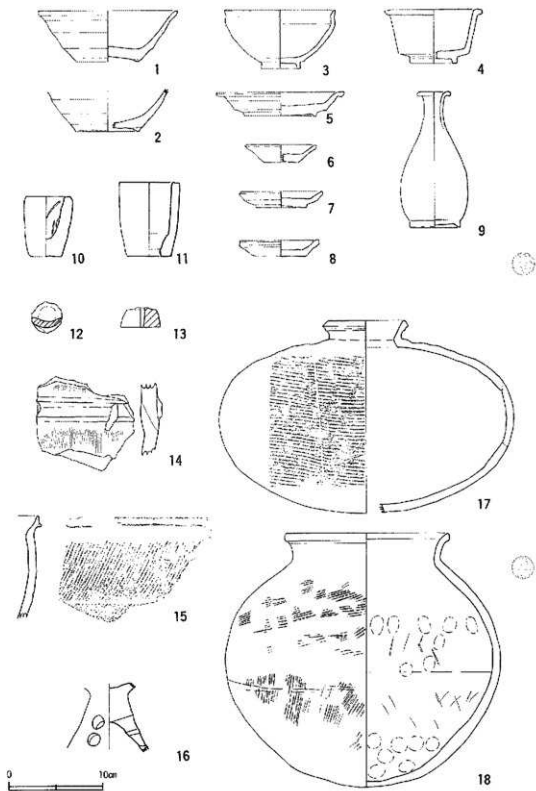
湯のみ茶碗底部に「中村・内宮前伊勢物産」¹¹と書かれたものがある。



第15図 遺物実測図1



第16图 遗物实测图 2



第17图 遗物实测图 3

V. ま と め

従来、賢三蔵通遺跡の調査は台地西縁において行われて来たが、今回の調査地点はかつて藁川が流れていた小規模な開折谷に面した台地東南部にあたり、広大な面積を持つ本遺跡の中では初めての東側における調査となった。調査面積自体は約 290m²と狭いながらもいくつかの新知見を得ることができた。

1. 古墳時代の幅約 3m、深さ約 1m の規模の溝を検出した。この溝は、調査区の北側は不明なものの東西で内径約 15m、外径約 21m の円弧をなしていることが明らかとなった。

この溝の性格については、形状、規模から古墳の周溝の可能性があると思われる。

ただし、墳丘や埋葬施設が確認できていないため、古墳跡と断定するにはまだ材料が欠いており、古墳か否かの結論は将来に持ち越すことにしたい。

また溝の時期について、溝内より出土している須恵器から検討してみると、須恵器は、尾張地方の須恵器編年でいう 5 世紀末から 6 世紀初頭のものが目立つものの、6 世紀から 7 世紀代のものも含まれている。よって溝は 7 世紀前半から中半頃掘削されたと推測される。

2. 中世の遺構は 4 AGr.、6 BGr. でピットをいくつか検出したのみで遺物も少ない。

3. 近世末～明治時代と考えられる土坑を検出した。土坑より出土した遺物は主として陶磁器であるが、SK14からは多数の陶磁器に混じって土人形が多く出土した。これらは当時の生活様式を知る上で貴重といえよう。特に土人形は精神文化をさぐる上で注目される。

また、石敷きは市内で初めて検出したものである。この用途（性格）を考えるにあたって次にあげる事例が参考となる。神奈川県小田原城米曲輪で長軸 15間、短軸 3間の長方

石列 3 基が検出された。この「石列は幅 1m 前後で人頭大の礫を敷き詰め」たもので米蔵と想定される倉庫の基礎と考えられている。更に東京大学構内加賀藩梅之御殿跡で蔵跡と考えられる遺構が検出された。この遺構は「方形に布掘りを施した後、掘り方内に礫を充填した」工法をとっていたようである。こうした工法は、地盤が固い台地上に建てられる土蔵に用いられる工法と考えられており、簡単な構造をしている。

こうした例から建物の規模こそ異なるものの、今回検出した石敷きは土蔵の基礎と考えることができるだろう。また検出した位置が御園通に面した屋敷地の一番奥まった所でもあることから上蔵である可能性は強いと思われる。しかし、壺庭のようなものかもしれないとの意見もあり、さらに類例の検討を通して考えていきたい。構築時期は近世末から明治時代と思われるが、SD01と共に名古屋城下町における屋敷地の利用について知る重要な遺構である。

註

- 1) 『第Ⅲ次豊三蔵通遺跡発掘調査概要報告書』 1986 名古屋市教育委員会 第Ⅰ章
- 2) 明治から昭和のはじめにかけては、御器所を中心に数軒の土人形製作者がいたが、現在では野田末吉氏ただ1人である。(浅野しんじ 「名古屋土人形に思う」朝日新聞 1987年1月17日付夕刊)
- 3) 塚田順正 「江戸時代の遺跡を掘る 城」『季刊考古学13号』 1985 雄山閣 P.57、2.39~40
- 4) 塚田順正 「江戸時代の遺跡を掘る 城」『季刊考古学13号』 1985 雄山閣
- 5) 古泉弘 『江戸の考古学』 1987 ニューサイエンス社 P.61 2.10~11
- 6) 旧茶川遺跡では谷地形を埋め立てた整地層で建物礎石を多数検出している。こ
には、地中深く丸太杭を打ち込みその上に数段重ねて人頭大の河原石を積んで礎石と
している例がある。地盤の軟らかい土地に建てる場合の工法の一つであろう。『旧名
古屋城下町遺構発掘調査概要報告書(V)』 1986 名古屋市教育委員会 P.6

遺物観察表

標記番号 (写真番号)	地区 出土地	種類 器種	流量	形部・技法の特徴	胎土 調成 焼成	備考
15-1	1BGr. SK02A	須恵器 杯 葺	口径 13.0cm	体部と口縁部の接は丸みを持つ。口縁部は外湾気味で丸くおさめる。体部内面、口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。	密 青灰色 良好	天弁部替外れる。ヘラケズリ右回り
15-2	6AGr. SK11	須恵器 杯 葺	口径 11.0cm 器高 4.9cm	体部は直直に下方にのびる。接は鋭い。天弁部はヘラケズリ調整。	密 青灰色 良好	2分の1存
15-3	2AGr. SK54	須恵器 杯 葺	口径 9.8cm 器高 3.7cm	底部はやや丸みを持ち体部は外方へ延びる。口縁部は丸くおさめる。底部外面ヘラケズリ。底部内面、体部内外面ヨコナデ。	密 淡灰褐色 良好	完形
15-4	2BCr. SK03D	須恵器 短筒甕	口径 9.0cm 器高 4.9cm	内外面ヨコナデ調整。底部外面不定方向のヘラケズリ調整。	密 青灰色 良好	3分の1存
15-5	2AGr. SK54	須恵器 杯 葺	口径 10.4cm	受部は水平やや上方へ延びる。口縁部は丸くおさめる。体部内面、口縁部外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ。脚部との接合部ナデ。	密 淡灰褐色 やや良	
15-6	1BCr. SK03A 大 葺	須恵器 甕 葺	受部径 11cm	受部は水平に近く、頸部は丸みを持つ。杯部内面ヨコナデ。外面下半ヘラケズリ。脚部外面ナデ。	密 淡灰褐色 良好	口縁部、頸部を欠失する
15-7 (6-5)	5AGr. 大 葺	須恵器 甕	口径 10.8cm	口縁部は受け口をなす。体部外面に斜め方向の平行タタキ。口縁部から頸部にかけてヨコナデ調整。内面ナデ調整。	密 青灰色 良好	胴下半部欠損
15-8 (6-8)	5BCr. 大 葺	須恵器 短 葺	口径 15.0cm	口縁部は受け口をなす。把子に欠損する。頸部に二束の沈線がめぐる。体部前面にタタキ。	密 青灰色 良好	胴下半部欠損 口縁部、体部前面に自然傷
16-1 (5-2)	4AGr. P0	土師器 甕	口径 15.2cm	口縁部は外方に張り、底部は面をもちやや窪む。体部にタテハを施す。	密 赤褐色 良好	4分の1存
16-2	3BCr. 土師器	甕 葺	口径 18.6cm	口縁部はくの字に外反し、底部は上方へたる。口縁部ヨコナデ調整。体部ナデ調整。	密 明黄白色 良好	口縁部4分の1存
16-3 (5-3)	5BCr. 大 葺	土師器 高 葺	底径 8.7cm	基部は直線的に下がり、底部で強く外弁する。外面ヘラケズリ後ナデ調整。底部ナデ調整。	密 割かい 白色砂粒含む 赤褐色 良好	
16-4	2AGr. SD05	土師器 高 葺	基部径 2.6cm	基部は中ほどややふくらみ底部にいたる。	密 1mm大の 砂粒を含む 赤褐色 良好	
16-5 (5-4)	3BCr. 甕 葺	土師器 高 葺	底径 10.0cm	基部は内湾気味に下がり、底部でさらにひろがる。外面ヨコナデ調整。底部内面にしぼり目。	密 0.5~2mm大の 砂粒多く含む 赤褐色 良好	2分の1存
16-6 (5-3)	3BCr. SL03	土師器 高 葺	底径 10.0cm	表面厚減し調整不明。	密 0.5mm大砂粒 多い 粉灰色 良好	
16-7 (6-1)	5AGr. 大 葺	須恵器 杯 葺	口径 10.8cm 器高 4.5cm	体部はやや内湾気味にのび、底部は内縮する段をもつ。天弁部は高く丸い。接は鋭い。天弁部2分の1ヘラケズリ調整。接はヨコナデ調整。	密 灰青色 良好	2分の1存
16-8 (9-9)	4DCr. 大 葺	須恵器 杯 葺		体部は垂直にのびる。天弁部はやや丸い。天弁部頂部に紐がつく。天弁部2分の1ヘラケズリ調整。	密 0.5~1mm 大砂粒含む 灰白色 不良	

16-9 (9-7)	3BGr. 大溝	須恵器 環蓋	口径 19.5cm	体部は垂直にのびる。肩部は欠損するが段をもつ。天井部は深い、壁がはげれる。壁は靱い。天井部、体部は自然釉がかなり濃く不明瞭。内面ヨコナデ調整。	密 青灰色 良好	6分の1存
16-10 (9-6)	6AGr. 大溝	須恵器 環蓋	口径 11.0cm 器高 4.3cm	体部は垂直にのび、肩部は丸い。天井部は浅い。天井部は自然釉がかなりヘラケズリ調整で不明瞭。他はヨコナデ調整。	密 青灰色 良好	4分の1存
16-11 (9-10)	5A 5BGr. 大溝	須恵器 環身	口径 10.0cm	たもあがりは垂直にのびる。口縁端部は平らで内凹する。肩部は断崖三角形で上方へのびる。底部2分の1ヘラケズリ調整。他はヨコナデ調整。	密 濃青灰色 良好	受部4分の1存
16-12 (6-2)	4BGr. SD02	須恵器 環身	口径 12.0cm 器高 5.0cm	たもあがりは内傾し、端部はまるい。底部はほぼヘラケズリ調整。他はヨコナデ調整。	密 褐色 良好	ほぼ定形
16-13	5AGr. 大溝	須恵器 環身	口径 8.6cm	口径が小さい。たもあがりは内傾し、端部は丸い。ヨコナデ調整。	密 暗灰青色 良好	
16-14 (7-9)	5BGr. 大溝	須恵器 高環	口径 9.5cm 基部径 2.5cm 器高 3.5cm	肩部との接合部から外方へ広がる。腰部はやや内湾気味。内外面ヨコナデ。	密 白色砂粒 形状に入る 淡灰色 良好	肩部欠損
16-15 (7-10)	4BGr. SD02と SD03 の間	須恵器 高環	口径 9.0cm 基部径 2.8cm 器高 5.0cm	やや細い肩部は直接的に下方へのび、腰部は外方へ広がる。内外面ヨコナデ調整。	密 0.3mm大 白色砂粒を含む 淡青灰色 良好	肩部欠損
16-16	4BGr. 大溝	須恵器 高環	口径 9.6cm 基部径 3.3cm 器高 5.7cm	器壁がたいへん薄い。肩部は直接的に下方へのび、腰部は外方へ広がる。腰部はとがり気味。内外面ヨコナデ調整。	密 0.5mm大 白色砂粒を含む 褐色一部 淡褐色 やや良好	肩部欠損
16-17 (7-8)	2DGr. SD03	須恵器 高環	口径 9.6cm 器高 4.0cm	腰部は外反気味に灰がり腰部は少し平坦をつくる。	密 灰青色 良好	
16-18 (8-7)	5AGr. 大溝	須恵器 髹蓋 高環	口径 20.6cm	肩部・口縁部は外方にひろがり、端部は丸い。体部に鈍い凸帯。口縁部との境に鋭い凸帯がある。	密 0.5mm大の 砂粒やや多く 含む 青灰色 良好	8分の1存
16-19 (8-3)	4BGr. 大溝	須恵器 髹蓋	口径 19.4cm	口縁部内外面ヨコナデ調整。肩部にタタキ目。頸部内面ナデ調整。	密 淡青灰色 良好	
16-20 (8-6)	5AGr. 大溝	須恵器 髹蓋	口径 26.7cm	二条の沈線がめぐり、その上方に斜線文がある。	密 淡青灰色 良好	4分の1存
16-21 (6-3)	5BGr. 大溝	須恵器 髹蓋	基部径 3.3cm	肩部は短く口縁部へつながる。体部最大径の位置に沈線がめぐり、その下に4点1単位位置に斜線文がある。その下にさらに沈線がめぐり、体部や上方に体部より突出して円孔部がつく。腰部はやや平坦部をもつ。体部上縁はヨコナデ調整。下半より底部はヘラケズリ調整。	密 0.5mm大の 砂粒含む 淡灰白色 良好	ヘラケズリ右 正り
16-22 (6-4)	3DGr. SD03	須恵器 髹蓋	基部径 2.8cm 器高 9.0cm	肩部は直接的に下方へとがり体部にいたる。体部最大径のやや上段に1条、下段にも1条の沈線がめぐり、その間には斜線文がある。その縁ゆるやかに底部にいたる。底部は丸いである。体部最大径のところに円孔を穿つ。ヨコナデ調整。	密 淡黄白色 良好	口縁部、肩部 を欠損する。 体部定形

16-23 (7-1)	5BGr. 包含層	須恵帯 滑鉢	底径 9.6cm	体部は外方へ延び、底部は外気味斜め下方へ延びる。	密 白色砂粒多い 灰茶褐色 底部内面 灰青色 良好	口縁部欠損 体部に線刻を持つ。
16-24 (7-4)	4BGr. SK06	須恵帯 高環	口径 11.8cm 器高 10.4cm 底径 9.5cm 基部径 3.2cm 脚高 5.6cm	環部・底部は平底で火味を持つ体部につながる。受部は短くほぼ水平で端部は丸い。たちあがりは内傾したのち端部でわずかに外湾丸くおさまる。脚部・基部は直線的に下がり、裾部は外方へ延び端部は丸い。環部体部内面口縁内外面ヨコナデ。体部外面ヘラケズリ、脚部ヨコナデ。	やや粗 白色砂粒多く 筋状に入る 淡灰色 やや良	ヘラケズリ 右回り
16-25 (7-3)	4BGr. SK06	須恵帯 高環	口径 12.0cm 器高 10.3cm 底径 8.8cm 基部径 3.2cm 脚高 5.9cm	環部・底部は平底で比較的浅い。受部は短くほぼ水平で端部は丸い。たちあがりは内傾し端部は丸い。脚部・基部は下平や外湾気味で端部は内湾して下方へ延びる。端部は内傾し、とがり気味。環部・内外面ヨコナデ底部外面ヘラケズリ。脚部・内外面ヨコナデ。基部外面は荒いヘラケズリがよくナデ消されていない。	やや粗 白色砂粒多い 淡灰色 やや良	ヘラケズリ 右回り
16-26	4BGr. SK06	須恵帯 高環	底径 9.2cm 基部径 2.6cm 脚高 5.0cm	やや細い基部は直線的に下方へ延び、裾部は急に外方へ広がりが、端部は内傾しとがり気味内外面ヨコナデ。基部外面は荒いヘラケズリをよくナデ消していない。	やや粗 白色砂粒含む 淡灰色 良	環部欠損
16-27 (7-5)	4BGr. SK06	須恵帯 高環 須恵帯	底径 9.4cm 基部径 2.6cm	基部はやや細く、裾部は平坦面を作る。端部は外方にとがる。内外面ヨコナデ。基部内面にしぼり目。	やや粗 白色砂粒多い 淡青灰色 やや不良	環部欠損
16-28 (7-7)	4BGr. SK06	須恵帯 高環	底径 9.6cm 基部径 3.4cm 脚高 5.6cm	基部やや太く、裾部は立ち気味で斜め外方へ開く。端部は垂直に下る。基部内面ナデ。外面ヨコナデ。環部内外面ヨコナデ。外面はヘラケズリをよくナデ消していない。	密 白色砂粒多い 淡灰青色 やや不良	環部欠損
16-29 (7-6)	4BGr. SK06	須恵帯 高環	底径 9.6cm 基部径 3.6cm 脚高 5.6cm	基部はやや太く、直線的に裾部につながるが斜め外方へ延びる。内外面ヨコナデ。基部外面にヘラケズリの跡が明瞭に残る。	密 白色砂粒多い 淡青灰色 やや良	環部欠損
16-30 (7-2)	4BGr. SK06	須恵帯 短頸壺	口径 7.6cm	口頸部は短く立ち上がる。口縁端部は丸い。体部上平に2本の沈線と刻み目をめぐらす。体部下平は斜位のタタキ目。体部内面上半はヨコナデ。下半は縦方向のナデ調整。	密 0.5mm程度の砂粒少量含む 灰白色 良好	底部欠損
17-1	4AGr. P4	陶器 碗	口径 14.6cm 器高 5.4cm 底径 6.6cm	「山茶碗」体部は直線的に外上方にのびる。11縁端部は上方につまみあがる。体部内外面ヨコナデ調整。足込みナデ調整。底部は承切り痕をナデ消す。高台に採取。	粗 5mm大砂粒含む 灰色 良好	体部内面に自然輪
17-2 (10-8)	6BGr. 包含層	陶器 碗	底径 6.8cm	「山茶碗」体部は直線的に外上方にのびる。体部内外面ヨコナデ調整。底部内面ナデ調整。	密 灰色 良好	底部3分の1 存
17-3	1ABGr. 東壁	陶器 碗	口径 11.8cm 器高 6.2cm	「天目碗」底部は圓形ヘラケズリ。	密 黄白色 釉は口縁口7色 体部褐色 良好	完形
17-4 (19-5)	5BGr. SD01	陶器 榎木鉢	口径 10.2cm 器高 5.7cm	口縁部は外方へ折れる。赤褐色。	密 黄白色 良好	完形

17-5	6AGr. SK08	陶器 瓶	口径 13.4cm 底径 2.5cm	体部下半から底部ヘックスリ調整。内面に目録 3箇所。	密 黄白色 緑は青緑色 良好	
17-6 (10-12)	6AGr. 瓶1内	陶器 小皿	口径 7.6cm 底径 3.6cm 器高 1.9cm	「山茶碗」内外正ともヨコナア調整。	密 0.5~2mm 大砂粒含む 明灰色 良好	口縁部4分の 1存 底部2分の1 存
17-7 (10-11)	4AGr. 包含層	陶器 小皿	口径 8.6cm 底径 5.2cm 器高 1.7cm	「山茶碗」内外面ともヨコナア調整。	密 0.5mm大 の砂粒含む 明灰色 良好	口分の1存
17-8 (10-13)	6DGr. P4	陶器 小皿	口径 8.3cm 器高 1.7cm	「山茶碗」体部内外面ヨコナア調整。足込みヨ コナア調整。底部希切り根。	粗 2~3mm大 の砂粒含む 暗灰色 良好	口縁部3分の 2存
17-9 (15-8)	2DGr. 石散入 福方	陶器 水缸	口径 6.2cm 器高 13.4cm	口縁部は外方水平に閉き端部は丸い。全体に釉 がつかぬ。瀬戸産造産。	密 淡黄緑色 良好	底形
17-10 (14-8)	1DGr. SK03B	土器 焼塩釜	口径 4.6cm 器高 6.5cm 底径 3.4cm	器壁は厚く小型品。内面によじれた形でも目録 がつく。	密 0.5~3mm 大の砂粒を含 む 赤褐色 良好	底形
17-11	2AGr. 石散入 下 包含層	土器 焼塩釜	口径 6.4cm 器高 7.9cm	口縁端部上面に覆受けをもつ。	密 0.5mm大の 白色砂粒少 含む 淡褐色	底形が欠落
17-12	6AGr. SK08	土製品 泥煎子	直径 3.2cm	平づくねによる。表面に布織、裏面に指押さ え模がつく。	密 淡棕色 良好	底形
17-13 (10-2)	3AGr. 包含層	土製品 純鍍平	口径 3.1cm 底径 4.2cm 高さ 2.0cm	円錐台形をしている。穿孔時の粘土のみだし が上面にみられる。全面ナア調整。黒斑がつく。	密 橙褐色 良好	底形
17-14 (9-12)	1BGr. 包含層	土製品 焼輪		内輪短輪。深い器壁に扁平なタガがつく。外面 タテハク。	密 1~2mm大 の砂粒少含む 淡黄白色 良好	
17-15 (8-11)	5AGr. 大深	須恵系 鉢	口径 56.0cm	口縁部に凸部がめぐる。口縁部ヨコナア調整。 体部外面平行タタキ。内面ナア調整。	やや粗 白色 砂粒多く含む 淡赤褐色 良好	
17-16 (5-5)	2BGr. 石散入 SD03	須恵系 高環		3方2段造かし。	密 砂粒少量含む 明褐色	
17-17 (6-6)	5AGr. 大深	須恵系 横板	口径 8.0cm 器高 20.6cm	口縁部は短く外反し。口縁端部直下に突起がめぐる。 体部外面に平行タタキ。ほぼ中央に縦方 向に一条の沈線。体部内面はナア調整。	密 青灰色 良好	体部の横半分 を欠損
17-18 (6-7)	5AGr. 大深	須恵系 鉢	口径 17.2cm 器高 27.1cm	口縁部は短く外反し、端部に上方へ上がり気味。 端部の下方に鈍い凸部がめぐる。器部は球形を なし、丸底にいたる。外面は口縁部はヨコナア 調整。体部は平行タタキ後ナア調整。内面は口 縁部から肩部にかけてヨコナア調整。体部はナ ア調整。	密 0.5~2mm 大の砂粒含む 灰青色 良好	口縁部と器部 の一部を欠損

写真図版掲載遺物一覽表

弥生土器・土師器・須恵器

写真番号	地区	出土地	種類	変 形 高 高 高	環 環 環 環
5-1	1BGr.	S K03B9研	弥生土器		
2	4AGr.	P10	土師器		
3	3BGr.	S D03	土師器		
4	3B4B間	6期	土師器		
5	2BGr.	S D03	弥生土器		
6	5BGr.	大溝	土師器		
6-1	5AGr.	大溝	環		
2	4BGr.	S D02	環		
3	5BGr.	大溝	甕		
4	3BGr.	S D03	甕		
5	5AGr.	大溝	甕		
6	5BGr.	大溝	甕		
7	5AGr.	大溝	甕		
8	5BGr.	大溝	提摺		
7-1	5BGr.	大溝	短頸		
2	4BGr.	S K06	高		
3	4BGr.	S K06	高		
4	4BGr.	S K06	高		
5	4BGr.	S K06	高		
6	4BGr.	S K06	高		
7	4BGr.	S K06	高		
8	2BGr.	S D03	高		
9	5BGr.	大溝	高		
10	4BGr.	S D02、03間	高		
8-1	5AGr.	大溝	甕		
2	5AGr.	大溝	甕		
3	4BGr.	大溝	甕		
4		大溝	甕		
5	5AGr.	大溝	甕		
6	5AGr.	大溝	甕		
7	5AGr.	大溝	無蓋高環		
8	6AGr.	大溝	無蓋高環		
9	5AGr.	大溝	器		
10	5AGr.	大溝	器		
11	5AGr.	大溝	鉢		
12	5AGr.	大溝	器		
13	5AGr.	大溝	甕		
9-1	5AGr.	大溝	高		
2	6AGr.	大溝	高		
3	4BGr.	大溝	高		
4	4BGr.	大溝	高		
5	4BGr.	大溝	高		
6	6AGr.	大溝	環		
7	5BGr.	大溝	環		
8	4BGr.	大溝	環		
9	4BGr.	大溝	環		
10	5ABGr.	大溝	環		

埴輪・山茶碗・他

写真番号	地区	出土地	種類
9-11	2BGr.	S D03	埴輪
12	1BGr.	包含層	埴輪
13	2BGr.	S D03	埴輪
14	2BGr.	S D03	埴輪
15	2BGr.	S D03	埴輪
16	2BGr.	S D03	埴輪
17	2BGr.	S D03	埴輪
10-1	2BGr.	S D03	鉄製品
2	3AGr.	包含層	土製紡錘車
3	埴土中		礫石錘
4	4AGr.	P27	陶器 碗
5	1BGr.	包含層	陶器 碗
6	1BGr.	包含層	陶器 碗
7	1BGr.	包含層	陶器 碗
8	6BGr.	包含層	陶器 碗
9	6BGr.	包含層	陶器 碗
10	6BGr.	包含層	陶器 碗
11	4AGr.	包含層	陶器 小皿
12	5AGr.	包含層	陶器 小皿
13	6BGr.	P 4	陶器 小皿

SK01出土遺物

写真番号	種類	器種	備考 (産地、時期)
11-1	陶器	碗	
2	陶器	楕鉢	
3	陶器	土瓶	瀬戸、近世末~明治
4	瓦質土器	蚊燵	
5	陶器	土瓶	
6	陶器	楕木鉢	底部に墨書
7	陶器	壺	
12-3	陶器	皿	瀬戸美濃 19C前半
4	陶器	碗	瀬戸美濃 近世末~明治
5	陶器	乗湯	
6	陶器	双耳壺	
7	陶器	徳利	

SK03A出土遺物

13-1	陶器	碗	
2	陶器	碗	大保頃
3	陶器	碗	天保頃 鉄軸
4	磁器	碗	
5	磁器	碗	肥前系 19C後半以降
6	陶器	乗湯	瀬戸美濃 19C
7	陶器	灰軸小瓶	瀬戸美濃 18C

SK03B出土遺物

13-8	陶器	乗湯	19C
14-1	陶器	蓋	
2	陶器	碗	信濃? 19C前半
3	陶器	小瓶	19C
4	陶器	碗	灰軸梅花文
5	陶器	片口鉢	瀬戸美濃 18C末
6	磁器	瓶	染付
7	陶器	徳利	
8	土器	焼塩煮	E類(渡辺誠氏分類)

包含層、石敷き周辺出土遺物

12-1	陶器	蓋	1BGr. 包含層
2	陶器	合子	1BGr. 包含層
15-1	陶器	蓋	無軸 石敷き上位包含層
2	陶器	蓋	産地不明 近世末 石敷き上位包含層
3	陶器	小瓶	石敷き上位～下位包含層
4	陶器	蓋	瀬戸美濃 19C前半 石敷き上位～下位包含層
5	磁器	鉢	石敷き上位～下位包含層
6	陶器	碗	近世末～明治 2BGr. 包含層
7	磁器	水滲	瀬戸美濃 19C 石敷き掘り方
8	陶器	水瓶	瀬戸美濃 19C前半～中半 石敷き掘り方

SK14出土遺物

16-1	陶器	兼燭	
2	陶器	兼燭	
3	陶器	兼燭	
4	陶器	兼燭	
5	陶器	兼燭	
6	陶器	兼燭	
7	陶器	蓋	
8	陶器	蓋	錆蝕 備前写し 19C
9	磁器	缸皿	
10	陶器	灯明皿	

17-1	磁器	碗	
2	磁器	碗	
3	陶器	碗	
4	陶器	皿	
5	陶器	碗	瀬戸美濃 鉄錆 19C
6	陶器	碗	
7	陶器	碗	
8	陶器	碗	瀬戸美濃 19C前半

18-1	陶器	搦鉢	
2	陶器	碗	瀬戸美濃 19C前半
3	陶器	鍋	産地不明 19C
4	陶器	鉢	常滑 19C
5	陶器	手焙り	19C
6	陶器	水鉢	
7	陶器	搦鉢	
8	陶器	火鉢	瀬戸 赤楽 19C前半

SD01出土遺物

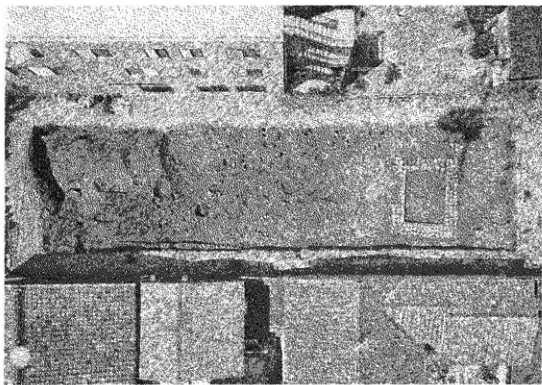
19-1	陶器	蓋	
2	陶器	皿	
3	陶器	碗	鉄錆 菊文様型刷り 近世末
4	陶器	碗	
5	陶器	植木鉢	瀬戸美濃 赤楽 近世末
6	陶器	甕	
7	陶器	徳利	

土人形 写真番号	地区	出土地	種類	特徴	
20-1	6AGr.	S K14	鳥	型造り	
2~4		S K14	鳥	手捏ね	
5		S K14	鳥	手捏ね	赤彩
6		S K14	鳥	型造り	鳴り物
7		S K14	犬	手捏ね	
8~10		S K14	犬	型造り	
11		S K14	猫	型造り	
12~17		S K14	馬	型造り	
18~19		S K14	獅子	型造り	
20		S K14	婦人	型造り	体部に差し込み
21~23		S K14	婦人	型造り	
24~25		S K14	婦人	型造り	後型
26		S K14	婦人	型造り	
27		S K14	補助	型造り	
28		S K14	布袋舟	型造り	緑色釉
29~30		S K14	天神	型造り	底部穿孔
21~31		S K14	筒壺	手捏ね	
32		S K14	雑草	型造り	中空
33~36		S K14	家	型造り	
37		S K14	城	型造り	
38		S K14	?	手捏ね	
39	2BGr.	S K03B	鳥	手捏ね	
40	1BGr.	S K03A	犬	型造り	
41	5AGr.		鳥	型造り	
42	6AGr.	包含層	犬	手捏ね	
43	6AGr.	包含層	人	型造り	
44	2BGr.	S K03B	婦人	型造り	
45	2BGr.	S K03B	太鼓	型造り	
46	4BGr.	S D01	狸	型造り	雲母多い
47	6AGr.	包含層	家	型造り	
22-48	2BGr.	石敷き	馬	型造り	



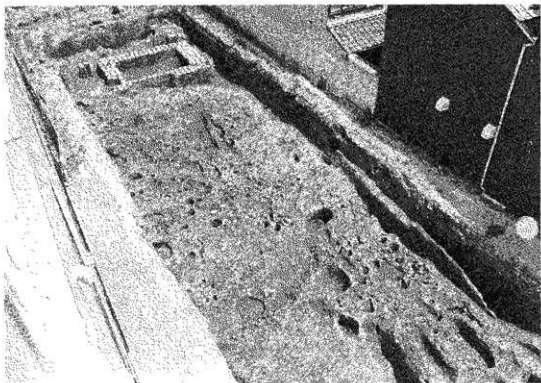
圖 版



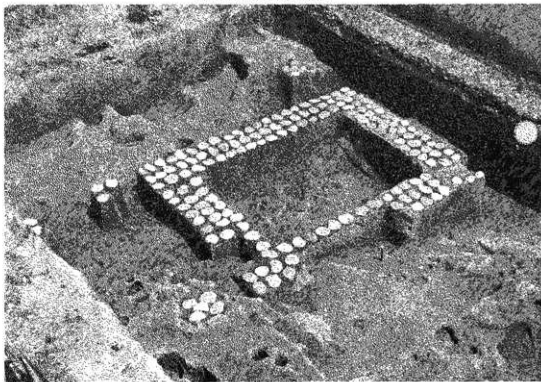


調査区全景(垂直写真— $\frac{1}{300}$)

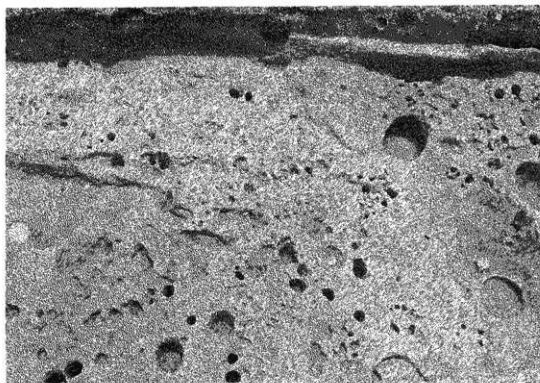
図版 2



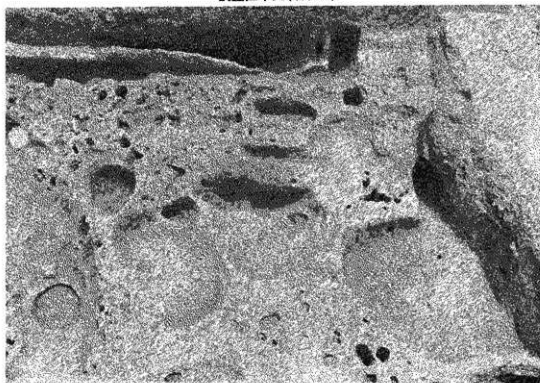
調査区全景(北西より)



調査区東側(北西より)



調査区中央(北より)



調査区西側(北より)



5BGr. 大溝 (罐)



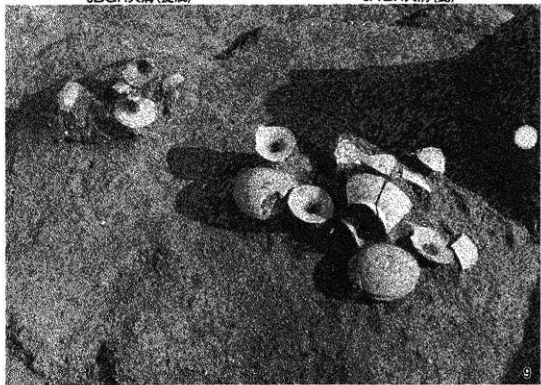
3BGr. 大溝 (罐)



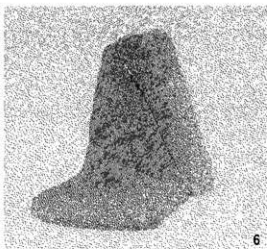
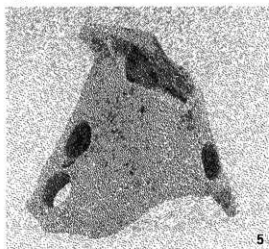
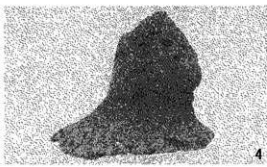
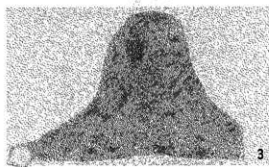
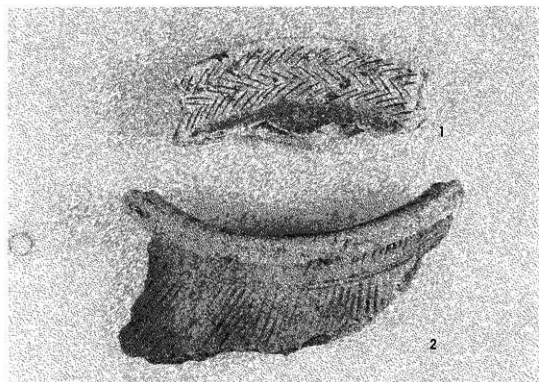
5BGr. 大溝 (提瓶)



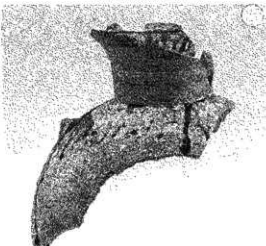
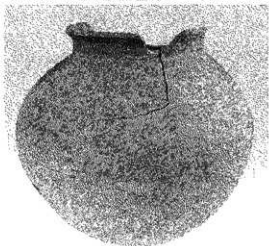
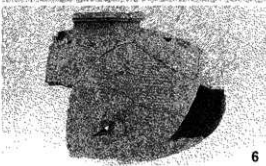
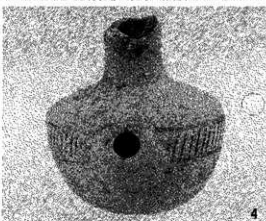
5AGr. 大溝 (甕)

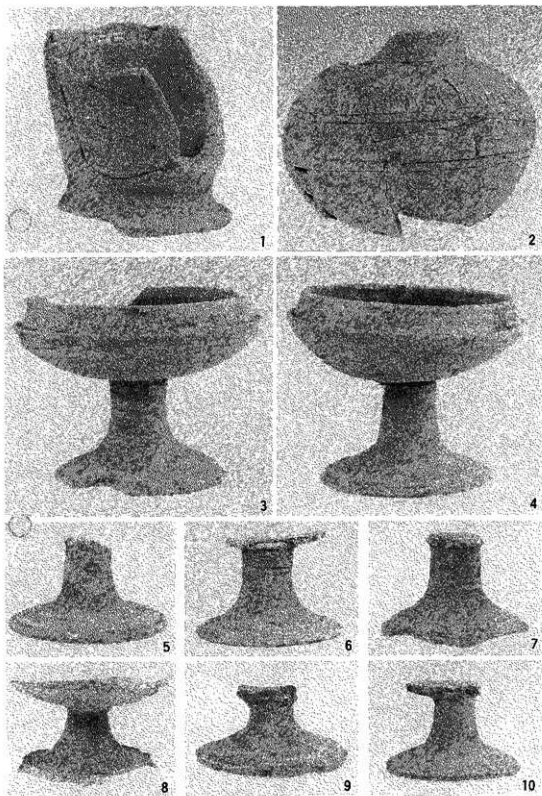


4BGr. SK00 (高坏・短頸壺)

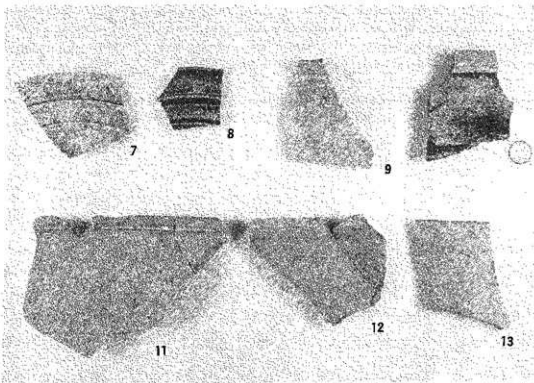
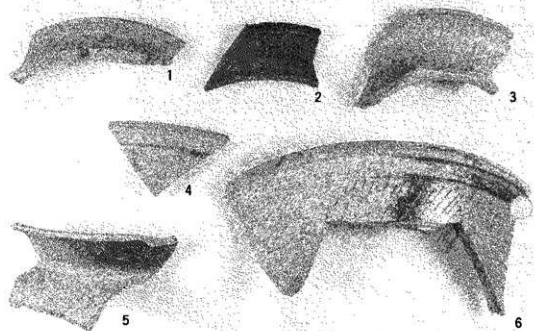


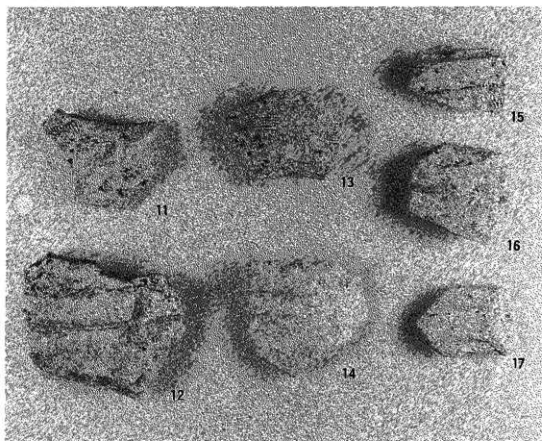
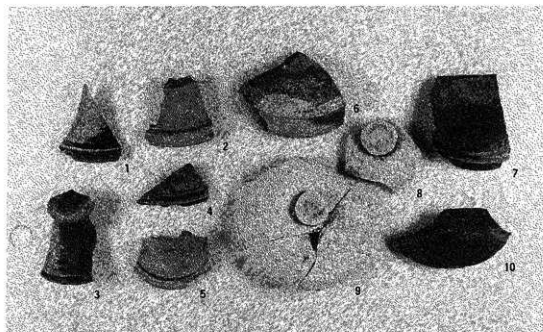
图版 6 大溝出土遺物





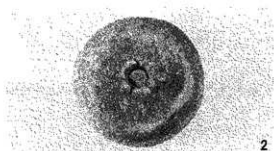
图版 8 大溝出土遺物



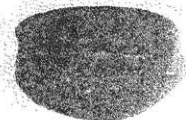




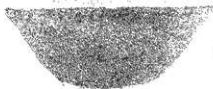
1



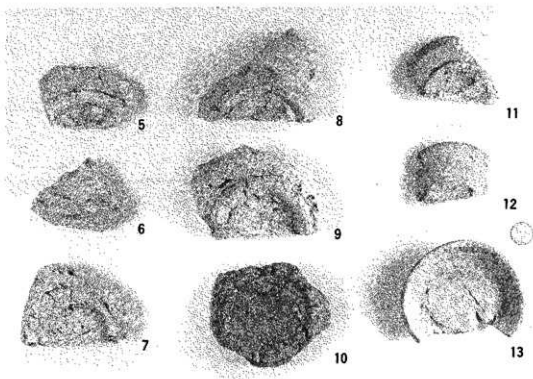
2



3



4



5

8

11

6

9

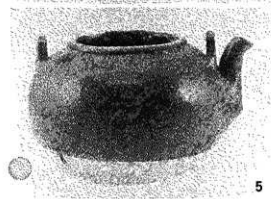
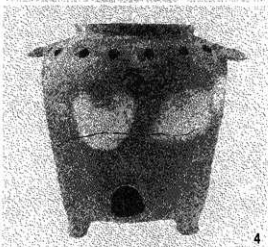
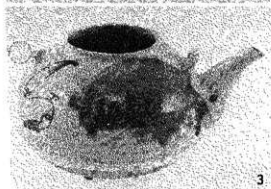
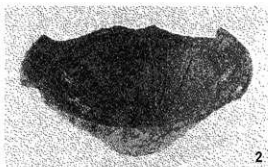
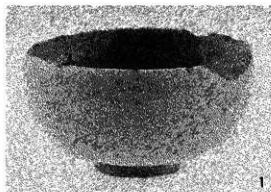
12

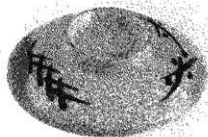
7

10

13







1



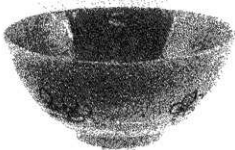
2



3



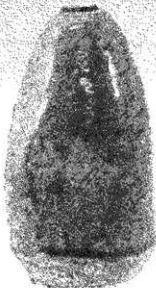
5



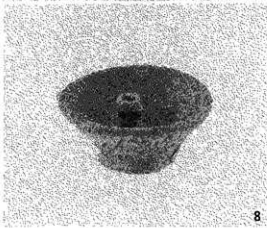
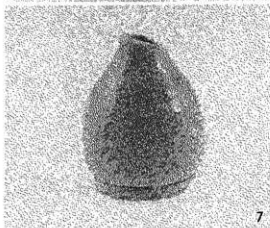
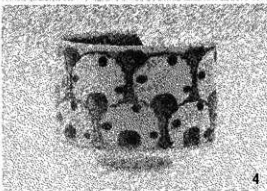
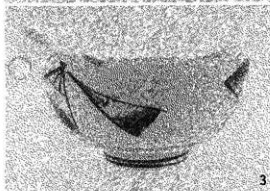
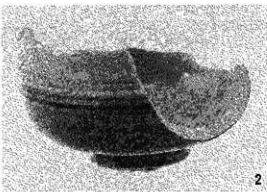
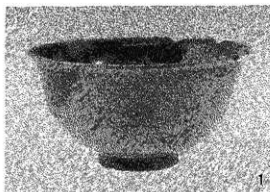
4



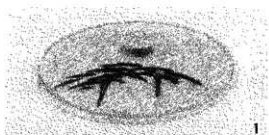
6



7



图版14 SK03B出土遺物



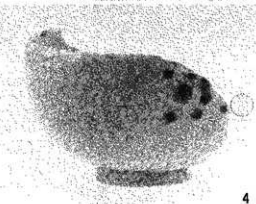
1



2



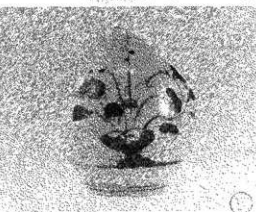
3



4



5



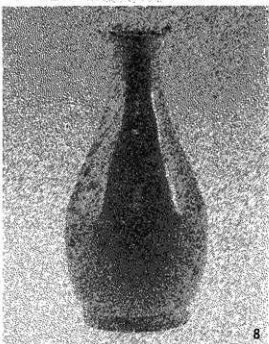
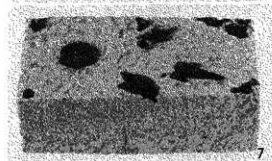
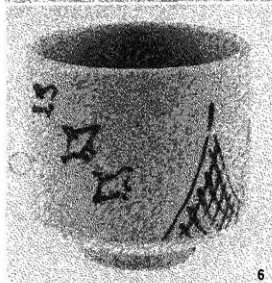
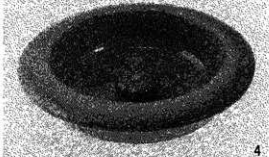
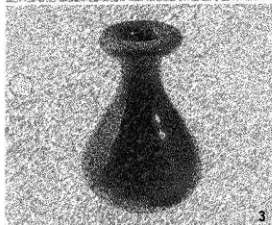
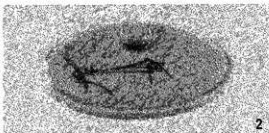
6



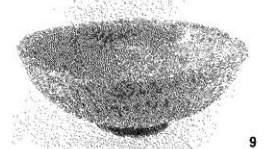
7

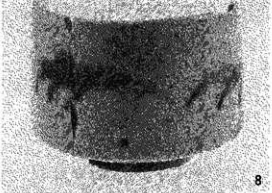
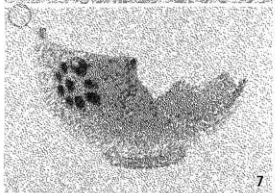
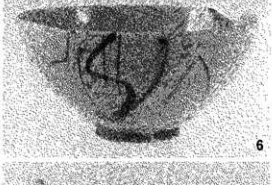
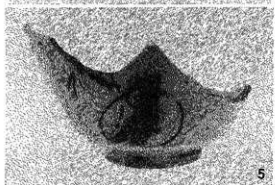
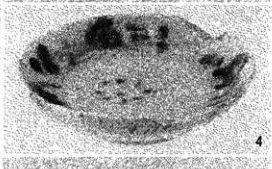
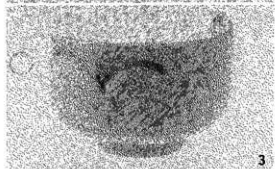
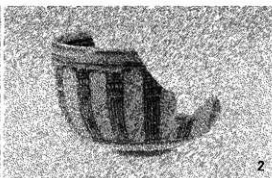
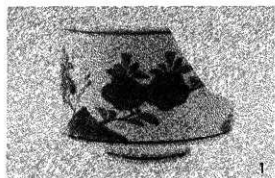


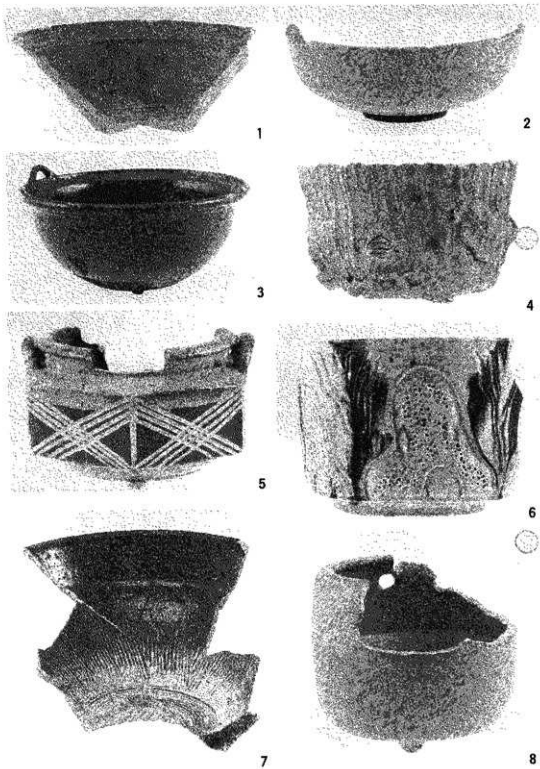
8

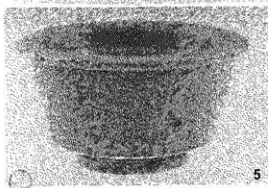
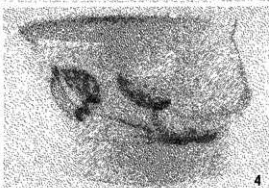
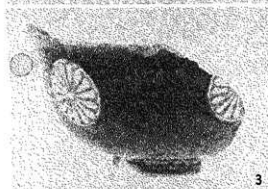
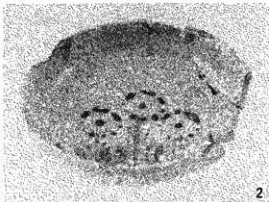


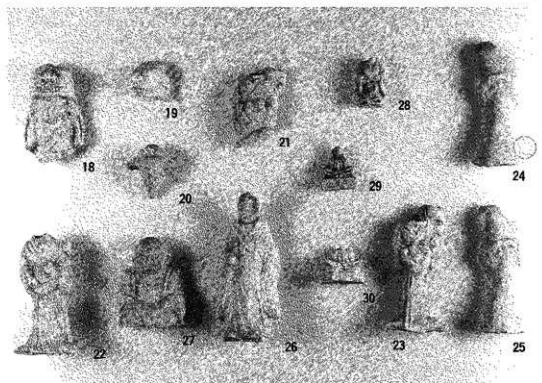
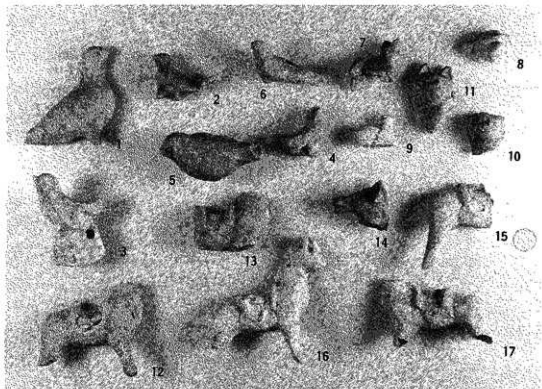
图版16 SK14出土遗物

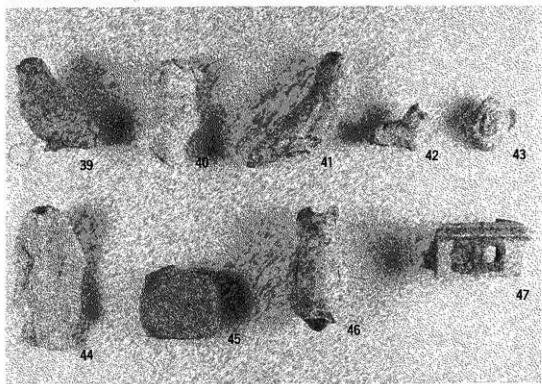
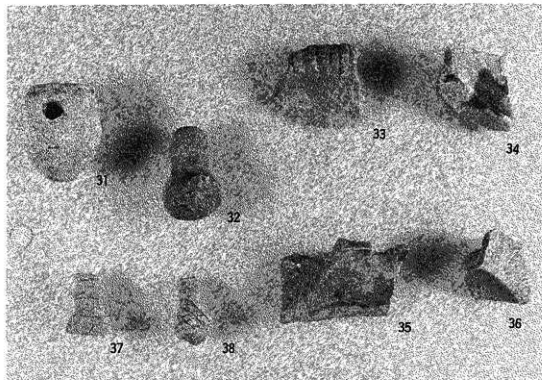


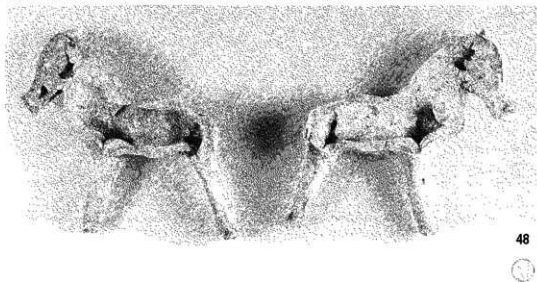












昭和62年3月31日発行

中区栄一丁目
第4次竖三蔵通遺跡発掘調査
概要報告書

編集 名古屋市見晴台考古資料館
発行 名古屋市教育委員会
印刷 澤多印刷有限会社

